



よりよい教育をめざして 各研究会実施

その1 第2回研究員会

- ・「生活意識アンケートの検討→実施
- ・「ほりぬきがひらいた未来」ワークシートの修正
- ・郷土学習会開催(富士山学習の素材満載 7/26 実施)

はじめに、富士山世界遺産センターの堀内竜幸先生より施設の概要と教育プログラムについて説明がありました。3月にはガイダンスビデオも完成し、教育プログラムも低学年でも利用できるものが充実してきていることが紹介されました。また、出前講座も実施されているとのことでした。文化遺産であることが子どもたちに十分理解されていない状況がありますので、有効活用していきたいものです。

研究協議では、1つ目は、教育アンケートについて検討しました。すでに各学校で実施されていますが、今回は「生活意識アンケート」です。ご協力お願いいたします。2つ目は、「ほりぬきがひらいた未来」のワークシートについて検討しました。昨年度利用して出された修正意見をもとに改善していきます。変更案をもとに8月末までに、各校で検討していただき、ご意見をいただきたいと思っております。

その2 特別支援教育研究会

6月25日、健康科学大学福祉心理学科講師の鈴木真吾先生を講師に研究会を開催しました。

特別支援教育コーディネーター、支援学級担任、普通学級担任、町単教諭、支援員14名が参加しました。テーマは、①「特別支援学級担任と支援員との連携について」、②「児童生徒や保護者との対応について」、③「各学校の校内委員会の状況と情報交換」でした。

先生方から出された質問や悩み等について、鈴木先生が答える形で進められました。障害の特性や対応の方法、校内の連携、保護者との連携、外部機関との連携等について具体的に話され、参加した先生方から、「わかりやすかった」「今後の方向性が見えてきた」等の感想がありました。

小立小梶原みのり先生からすばらしい実践資料を提供していただきました。

- ・ 具体的事例について、鈴木先生に詳しく話していただくととても参考になりました。現場での困り感を専門的に解説していただくと、支援の方向性が見えたように感じます。これからの教育活動の原動力をいただきました。貴重な機会をいただけて良かったです。
- ・ 実態を出す中で、どのような対応をするのか、また、その行動等をどう捉えるのか、具体的にご指導いただき、今後の体制について再考できました。
- ・ 子どもの後ろにいる保護者に目を向ける大切さ、必要なコミュニケーションや連携についても、もっと考えていかなければならないと改めて思いました。
- ・ 自校だけの悩み以外にも他校での課題や悩みを聞き、鈴木先生のアドバイスや提案も聞くことができ、知識や対応の仕方を知ることができました。
- ・ 「誰も責められない取組を」という鈴木先生の言葉が印象的でした。
- ・ 校内の先生方にもこのような形式でできると、みんなのためになると感じました。

裏面に続く

その3 外国語教育研究会

先行実施2年目となった外国語科(5, 6年), 外国語活動(3, 4年)ですが, 本町では, ALT(外国語指導助手…25年程前より配置), 英語教育支援教員(昨年度より配置)が雇用され, 指導に入り, とても充実した外国語の授業が行われています。7月4日に外国語教育研究会が行われ, 成果と課題について検討しました。

成 果

- ・ALTや英語支援の英語が聞き取れるようになった。また, 正しい発音ができるようになってきている。
- ・子どもたちの英語に対する抵抗感はかなり低いと感じる。町単英語教員とALTの先生が楽しく英語に触れさせてくれているお陰だと思う。
- ・家庭でも英語を使う児童が増えた。(保護者より)
- ・5, 6年生という頭も心も柔らかいうちに英語を学ぶことで, 友達またはいろいろな人と積極的にコミュニケーションがとれるように育ってきているように思う。
- ・現5年生は前年度に週1時間の外国語活動をしてきたので, 昨年とは比べ物にならないほど英語に慣れているように思う。ALTの英語だけの指示にも分からない表情をしていることが少ない。発話もやりとり練習も楽しんで取り組んでいるように見える。
- ・子ども達は, 外国人と日常的に会う環境にある。この環境を活かして, さらにコミュニケーション能力を高めていけたらと思う。
- ・小学校でチャンツに合わせて, リアクション表現をたくさん学習してくださっている。子どもたちは, それのリズムなど身体で覚えている感じがする。(中学校教諭)
- ・ALTと町単英語教員がいてくださるおかげで, より専門的な学習につながる。また担任の指導力向上につながっていると感じている。
- ・町単英語教員3人の先生方には, 複数校で授業を担当して頂き, また事前に教育課程を含めた細かな打ち合わせをしていただき感謝している。そのおかげで富士河口湖町のどの小学校も同じ実践ができています。

課 題

- ・来年度から, 新しい教科書で新しい内容を教えることになる。そのための教材研究の時間が必要。また新しい観点による評価が始まる。評価に関する学習や新しい教科書の教材研究等, この時期の教員への負担は相当なものになる。全面実施に向けて, まだまだ課題がある。
- ・多忙な中で担任が町単の先生のような授業を行うことは非常に難しいと感じる。せっかく子どもたちの英語への抵抗感が低い状態にできているので, できれば英語専科の町単は継続してほしい。
- ・来年度から新しい教材になるわけだが, 環境面の整備が不可欠。指導書をはじめ, 絵カードやデジタル教材がしっかり揃っている状態で始められるとよい。
- ・担任の先生が主体の授業に向けて準備があまりできていません。担任が積極的に参加できるよう来年を見越した授業作りが課題です。まずは担任との打ち合わせ時間の確保が課題です。

実践の不安に対し, 他学年の先生が授業を参観したり, 実際に授業を行ったりするなど研修を工夫して行っている学校があります。



大石小学校では, 7月3日に6年生が, 10日には5年生がハーブフェスティバルに訪れた外国の方に取材する活動を行いました。はじめは, 「話をするのにとても緊張しました。」の感想のように, 戸惑いも見られましたが, しっかりと英語で質問することができ, 好きな日本食, 自国の好きな食べ物などを聞くことができました。中には, 外国の方が話したことに対して “really” など, 受け答えをする様子も見られ, 日ごろの授業の成果が表れた活動となりました。